

NOTE BOOK
WITHOUT EFFORT, ONE IS SURE TO FAIL

馬見、崎川の歴史と今のように

74

敬学
会
第
四
巨
入
選
作
品

五年一組

中村貞雄

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP
MARUKYO'S <YÔ> NOTE



TOKYO

BT A50

1. 馬見ヶ崎川の歴史と今のようす

2. 研究をはじめたわけ

ぼくは「むかし、馬見ヶ崎川がよくはんらんしてこまったことがある

のだよ」と聞いたことがあります。それで「いつ馬見ヶ崎川の

こう水があったか、とんがひがいたか、流れ方は今もむかしも同

じか」などということを本で調べることにした。

3. 研究内容とその方法

しらべ方

○馬見ヶ崎川の上流や下流のほうへ行ってみる。

○馬見ヶ崎川の歴史や今のようすを調べる。

方法

○上流や下流に行って見る。

○図書食官の本などで調べる。

< 馬見ヶ崎川と山形市民について >

歴史的に見ると山形市はむかしから馬見ヶ崎川の洪水になやまされてきました。のみ水や工業用水、農業用水として山形市を流させてきましたがその反対に洪水となって人々の生活をおびやかしたのも馬見ヶ崎川の水である。

大正時代まで大洪水となって市民をこまらせた。

< 馬見ヶ崎川的位置と長さ >

馬見ヶ崎川的位置は、南村山郡東沢村大あざ上宝沢葉の太沢
国有林21林班地先から左岸山形市大宮成字前川
原229番地先右岸同市成字同字1693番地先まで
の22.463kmをいう。

< 馬見ヶ崎川の名のゆらい >

源義家(永保3年あおいの年(1083年)が清原武則をうっためもて
きたしか像は白馬の背にのってきたといわれ、悪病が流行し死者
が多く出た時、この像にいのったものだけ免れたという。



これにいいのり中人々はどこからともなくひびく馬のさけび声を耳にし、不思議に思って遊びりを見まわしたので、この辺を馬見ヶ崎とよび、川を馬見ヶ崎川とよぶようになった。

これを言い読んでぼくのかんそう

ぼくは、びりり気がなあったのがうれしかったのでこの名前をのこしたのだと思いう。

<馬見ヶ崎川の地形と地しつ>

馬見ヶ崎川は、山形盆地の南部を流れています。

馬見ヶ崎川の流れによって山形市はおうぎ形になっています。

馬見ヶ崎川は、さ王山、かんと山の間から流れ、せき沢川(なめ川)

がぼう原ふ近で合流してまた下流でみょうげん川を合流して水量を

ましながら、ちとせ山とさかすき山の間から急に山形盆地

に流れ出でます。 この地しつは、川の中流からほとんどかこうかん

になります。 これは山を見るとよくわかります。

みうかんじ
妙見寺部落の西の方がおうぎのかなめ(中心)として

じく系泉(おうぎの形の中心線)はささやかい道の南を
西にむけ法^{ほう}懂^{とう}寺^じより山形駅を通る線にある。

そして、せんとうの坊原附近とせんたんの^{せんたんの}間^まさ(高さ)は、
100mもあります。東西の1かいは、むじょうにあります。

<水質と水温>

水質

馬見ヶ崎川の水質について山形大学加藤教授が
研究したことを表にあわせておきます。

観測期間は、1958年4月～1959年の4月まで

場所 ぼう原、なめ川の二ヶ所

水けい	流量 (m^3/sec)	(mg/l) 物	カルシウム (mg/l)	こう度 (mg/l)	えんそ (mg/l)	けいさんそ (mg/l)	けいさんそ (mg/l)
ぼう原	2.35	65	6.9	23.2	4.0	13.2	18.5
なめ川	0.70	51	5.8	18.5	4.5	5.1	17.2

この表からわかることは、上流ほどふくまれている
ものが少なくてきれいだった。

水温 ごとんせき水温表

①

旬別	5月 下旬	6月 上旬	6月 中旬	6月 下旬	7月 上旬	7月 中旬	7月 下旬	8月 上旬
33年度	14.6℃	15.5	16.6	20.8	20.6	21.5	19.0	19.7
44年度	12.9℃	13.9	14.1	16.2	17.1	17.2	17.4	18.8

②

旬別	8月 中旬	8月 下旬	9月 上旬
33年度	19.2	17.8	17.1
44年度	17.2	16.9	17.2

(注) 水温は、地下水(井)と水です。

この表からわかること

33年度のぼうが高いのは、なせなのかわかりました。

33年は、7月が高いが44年は8月が高い。

田でいねを育てることは水が必要ですがこのいねに
てきする水温は分けつき(かぶが分かれる時)には、34℃、それから
のはつくには、30℃～32℃ がよいといわれています。

水温は最高40℃ 最低14℃とされているので「ため池
や、ち水地にためておいて ちょうせつします。

以上「馬見ヶ崎農業水利史上

<水路>

山崎吉雄

馬見ヶ崎川の水けりにかかりをもつちいきは、(ささせき、ごてんせき
ハケごうせき、宮町せき)である。

ささせき-----みょうげん寺土地内で「馬見ヶ崎川の水を
とり入れて、西南に水路をとって流れる。

本町、十日町、八日町、金鉄ほら町、三日町、ろうそく町
小荷だ町、二日町、五日町、上町、材木町、スワ町、ゾウ町
前田、平清水、よしわら、南だて、沼木、いっすか、くぬぎ沢
その他

⑤ せき-----田に水をかけるため作ったもの

ごてんせき } -----みょうげん寺の西、松原の地点で
ハケごうせき }

馬見ヶ崎川の流れてとり入れて、とり口はごてんせきは上流

ハケごうせきは そのやや下流で、平行して、てんじん様うらで

ごてんせきはまっすぐに西に流れハケごうせきは西北に

水路各を取って、せんしょう寺北がわから、まんにち川原

(今の県庁の所)をすぎ、西にさがって流れた。

ごてんせき -----七日町、はたご町、小橋町、みな川町

さかな町、しもしょう町、しと田。

ハケごうせき -----六日町、かじ町、四日町、ふぶ町

江また、じん場、中野、内表、船台町、吉野く、新田、すしあらい

宮町せき-----せんしょう寺北で「馬見ヶ崎川から

分水(とり入れると)して、西北に流れて宮町にむかう。

宮町、どう町、今ずか

以上「山形の歴史」後篇

川崎浩良

<馬見ヶ崎川の特徴>

でいばうに出てみると川といってもいたる所 石だらけである。これは、建ちく、土木工事などにとって利用される。

川ははが、広いわりあいに水の量が少なくて、上流の水は、どこに行ったかふしぎになる。

これは、じりのその中に水がしみとおったり、いくつかのせきに、わかれるからである。

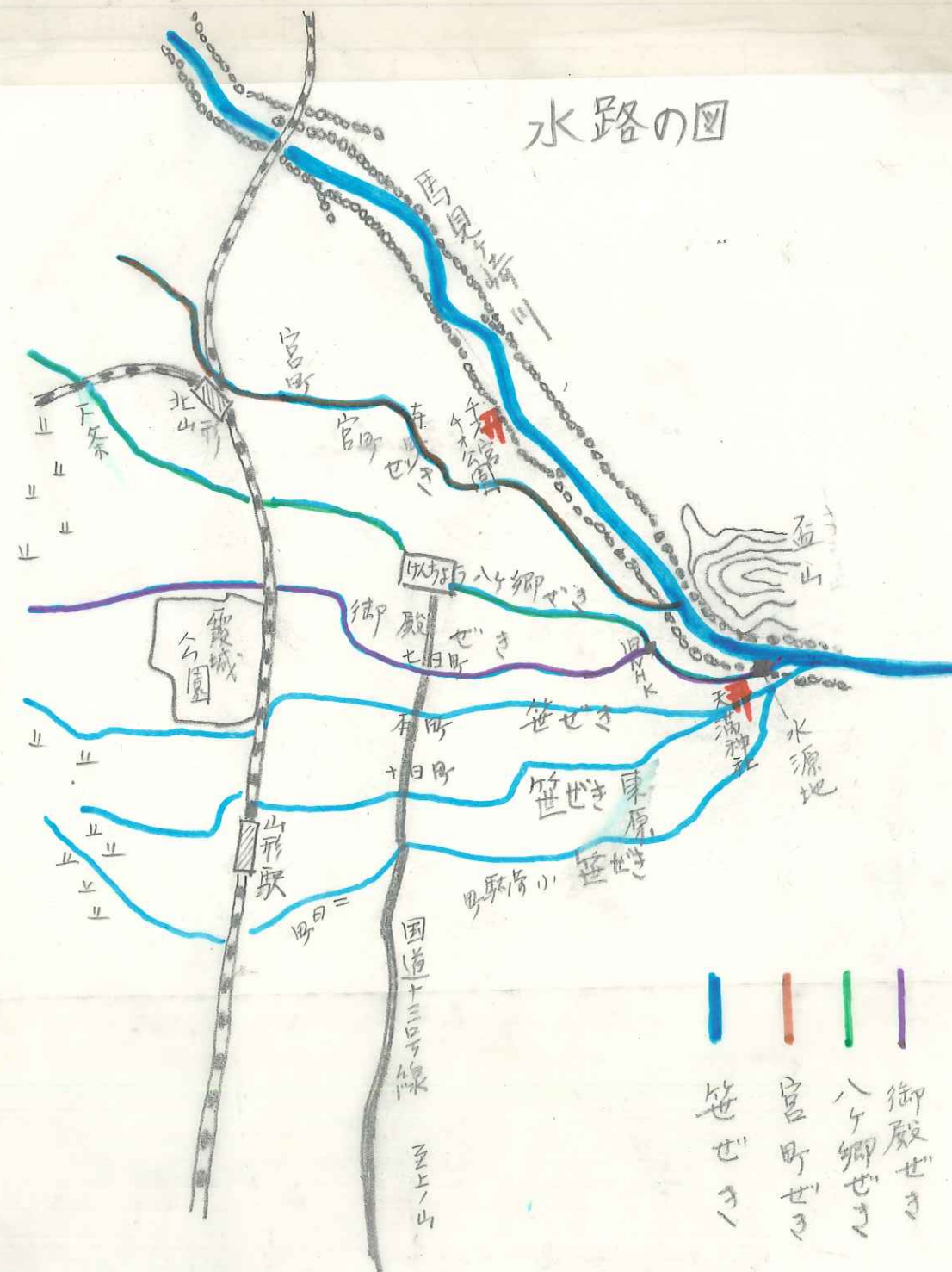
じりの中にしみこんだ水が地中を流れ、また川となって、流れる。この伏流水(地中を流れる水)がほうふなので最上^{よしあき}義光は、山形城を守るためにおほりを作り、地下水をためた。

むかしは、このせきを利用して、水車をかけて、米をついたり、糸をつむいだり、おたを打ったりしたという。明治23年ごろには80ぐらいあったといひます。また、いたる所に井戸を掘ってのみ水とした。

今は水車は見られません。

以上「山形市郷土と巻」

山形市教育会より



〈馬見ヶ崎川の歴史(流れを中々に)〉



最上^{よし}義^{あき}光時代(1375年)の図からわかること
最上時代の時は、東から西の方へ流れていたことがわかる。

〈鳥いただ政時代〉

元^な和8年(1622年)10月3日鳥い左京の封ただ政が山形城のあるじとなった。

ただ正文は、馬見ヶ崎川がよくはんらんするので、馬見ヶ崎川がはんらんすると、東の方から城の大手門にせまるので流れを北にがえした。

すなわち市の中央部を東西に流れていたのを少し北にがえたのです。

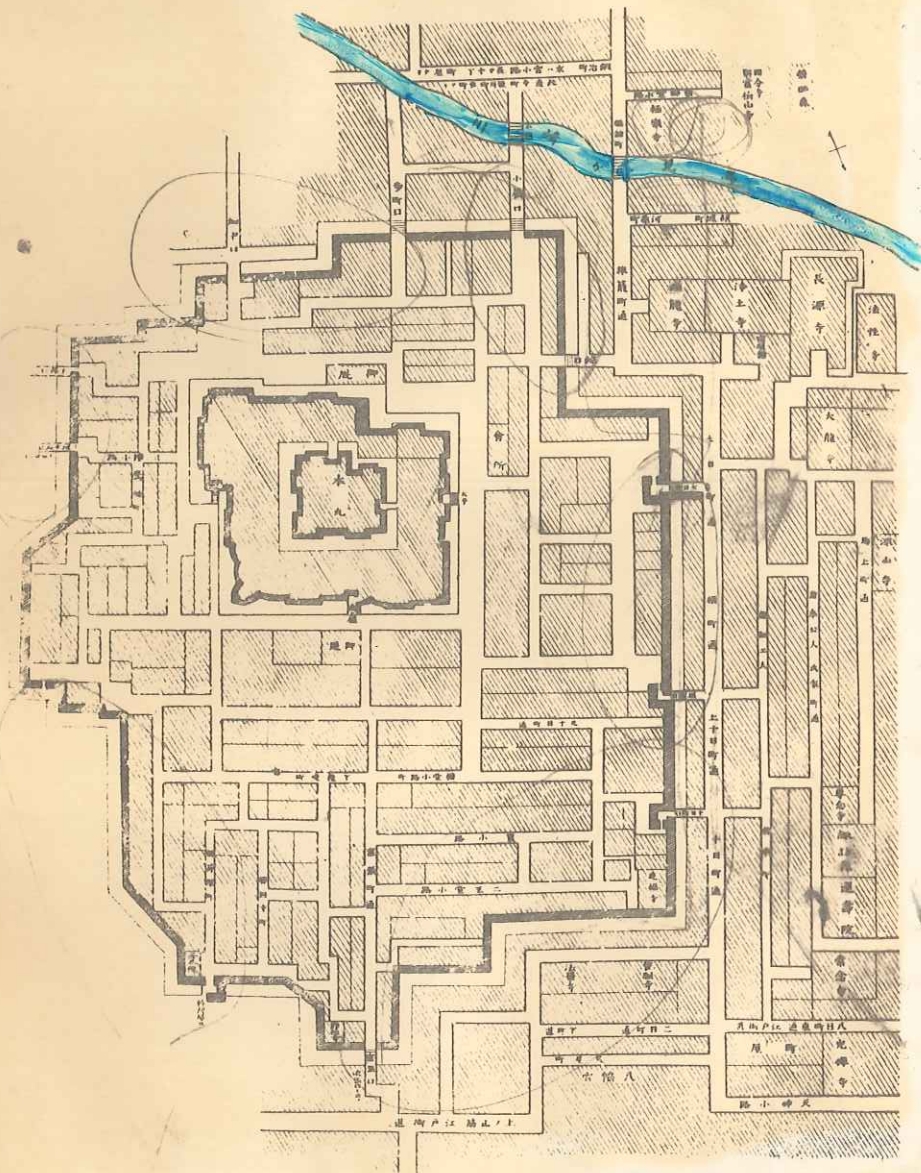
当時のこととしては、大事業でした。

どうかえたかという図は、ありません。

それから14年たった保科時代は、つぎのとおりです。

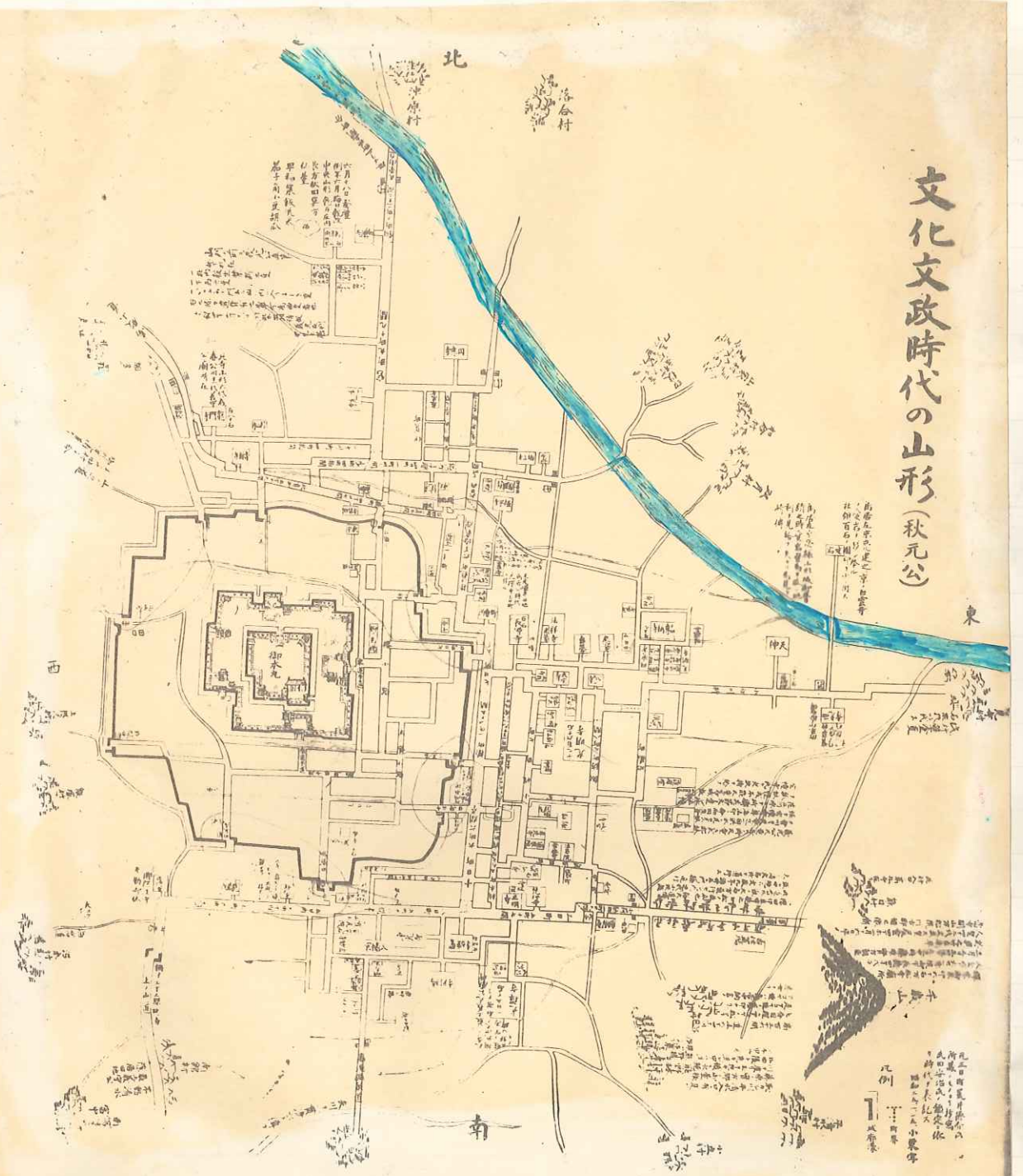
<保科時代の山形城下図> (1636年)

保科時代山形城下図



<文化文政時代の山形> (1804年)

文化文政時代の山形 (秋元公)



これらの図でわかること
 最上時代の時は城の外(まわり)の近くを流れて
 いましたが、保科時代は少し北(きた)になってきて、
 文化文政時代になつたらもっと北(きた)よりになって
 きました。これを図に表わしておきます。



〈馬見ヶ崎川の洪水の歴史〉

江戸時代

- 元和^な8年(1622) 鳥居^{たけふ}忠政が流れを北にたえて、いぼうを作した。
- 正保4年(1647)3月 村山大水 米のかかかどがはした。
- 天和2年(1682) 村山地方大洪水
- てん保4年(1719) 村山地方大洪水
- てん保8年(1723) 馬見ヶ崎川洪水
- 文政7年(1824)8月 馬見ヶ崎川大洪水
- 天保10年(1839) 県全部水びたし
- か久4年(1851) 馬見ヶ崎川大洪水

明治時代

- 明治2年(1869) 村山地方大決
- 明治8年(1875) 内陸地方大洪水

明治23年(1890) 天満神社北高うらのでいぼうが
七刀れて、三島通り、県庁前、はたご町
六日町、小橋町に流れていった。
これは、最上時代の流れと同じに流れて
いきました。

明治27年(1894) 12月16日 ていぼう10ヶ所こわされる。

明治30年(1897) 9月 流されたていぼうが146ヶ

明治35年(1902) 10月 ささせきのでいぼうが全部切れた。

明治36年(1903) 9月23日 宮町せきの水門および下流の
ていぼうが11ヶ所がきれた。

明治42年(1909) 4月7日 ささせき、天満神社うら、えんのうじ
かんのんどううら、どう町のていぼう
七ヶ所がこわされ、1264ヶ流
された。

明治42年(1909) 10月 4月のていぼうをなをしたのがまた
やられる。 明治42年10月、水に変わった。

明治43年(1910) 8月14日 ささせき、天満神社うら、宮町せき水門
九十九橋上流、ちとせ公園うらのでいぼう
が1720ヶ流される。

明治44年(1911) 7月27日 えんのうじかんのうじうらのでいぼう
がこわされた。

大正時代

大正2年(1913) 8月7日 大きな台風がきて 天満神社うら
北高うらのでいぼうがきれて三島通
りから県庁前に流れた。32連隊の
1個小隊(100人)が出たが水の深さ
が86cm(2m40cm)にもなって手のつけ
ようがなかった。

大正3年(1914) じょうぶなていぼうや、ていぼうほこ林
を作った。うめたて面積約11万平方^{メートル}米
それが今のみどり町です。当時のお金で1万5千^円。

昭和時代

昭和13年(1938) 8月 大雨のため大こう水

この洪水の歴史からわかったこと。

○明治42年には、2回も洪水になった。

○明治42年43年44年と毎年の洪水に市民はやすむ ひまがなく

ふっきりのために、たくさんのお金を使った。

これでは、山形市がはさんしなければならない。という声までも上がった。

この時の人はたいへんだったと思う。

<馬見ヶ崎川の橋>

上流の方から

1. 土坊原橋

2. 山形大橋 (ハイパス)

3. そう月へ行くもか工事中の橋

4. 馬見ヶ崎橋 ^{くも} 十九橋

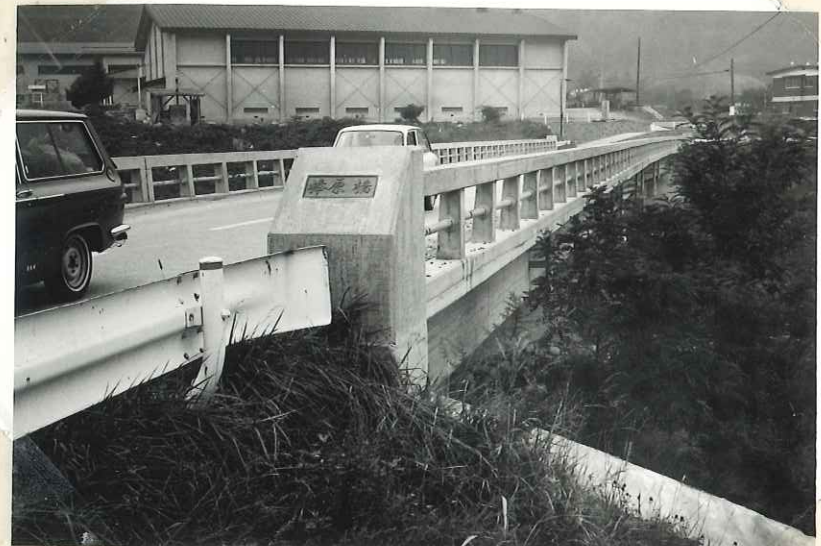
5. ニニ口橋

6. ちとせ橋

7. 見崎橋

8. 白川橋

1. 土坊原橋



最近できた、コンクリートの橋

坊原橋のそばに住むおじいさんに話を聞いてみました。

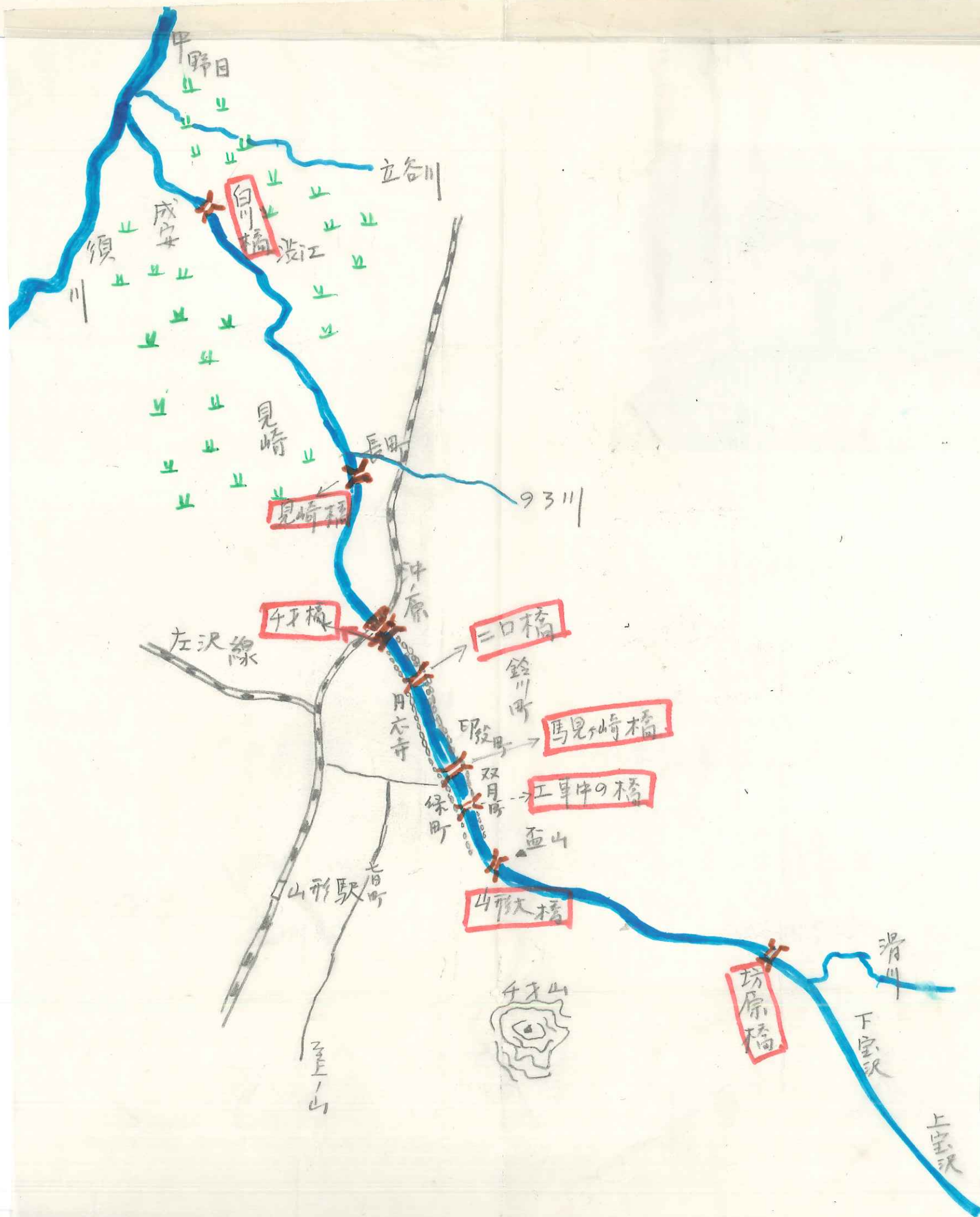
おじいさんが11歳くらいで大正2年の洪水の時は、この

坊原橋は、木で1204m(216m)もの長い橋でした。それが

流されてそのふたが水びたしになり、しょうぼうたんの人が

はたぎおなともて、それにつかまってわたりました。それから坊原

ふたが高くなったので川が二つにわかれ、^{からまつかみ}唐松観音の所でまた一つになっています。



2. 山形大木橋(バイパス)



自働車が多くとまっている。

3. そり月へ行く、もか工事中の橋



なんという名前がつくのがたのしみだ。

4. 馬見ヶ崎橋(元千代橋)



明治13年に印役町と山形市の町が行ききすように、

橋をかけることにした。

水が流れている部分に木の橋をかけ、その他の所
は、石をつみかさねて作った戸けをわたったが、水のかさ
が、ましてくると、竹がえなくなった1、ツルがえたりしたので

明治21年に本かくてきを橋をかけることになった。

それは、細木をを組んで杉皮をしいてその上に土

をもったもので、長さ^{つくも}が99けんあったので九十九木橋とよんだ。

らんかん(手すり)はなかった。

明治44年に本かてきな木の橋(手すり)のついた)にかけかえた。

昭和8年にコンクリートの現在の橋になった。

郷土の先覚者

長谷川利助翁伝より

そして又最近^{最近}は、交通量が多くなったので両側に

歩道がつられ、橋の巾は、ずっと広がっている。

馬見ヶ崎川にかけられている木橋の中で、けしきも一番よいと思う

5. 二口橋

歩道がついている。



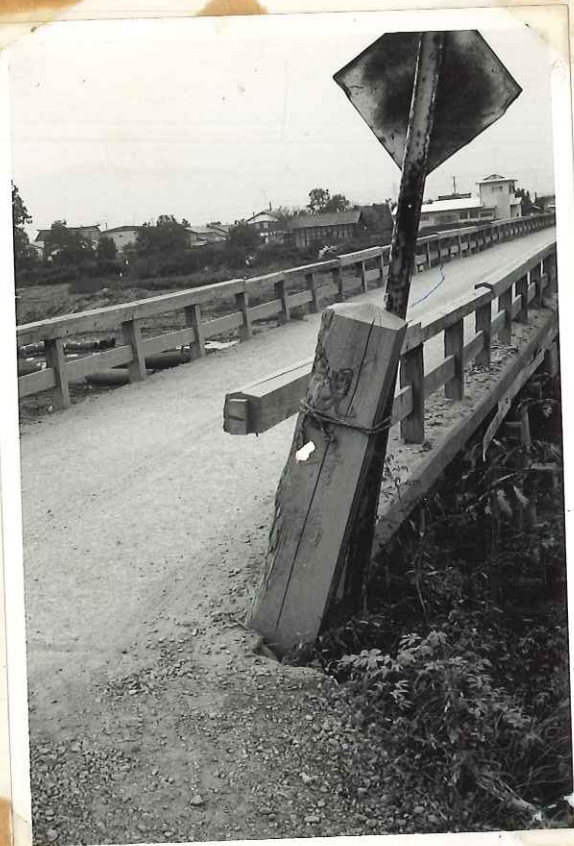
6. ちとせ橋



馬見ヶ崎川の橋の中でも長い橋です。

7. 見崎橋





古い橋で自動車が
通るとゆれます。
今にもこわれそうです。

8. 白川橋

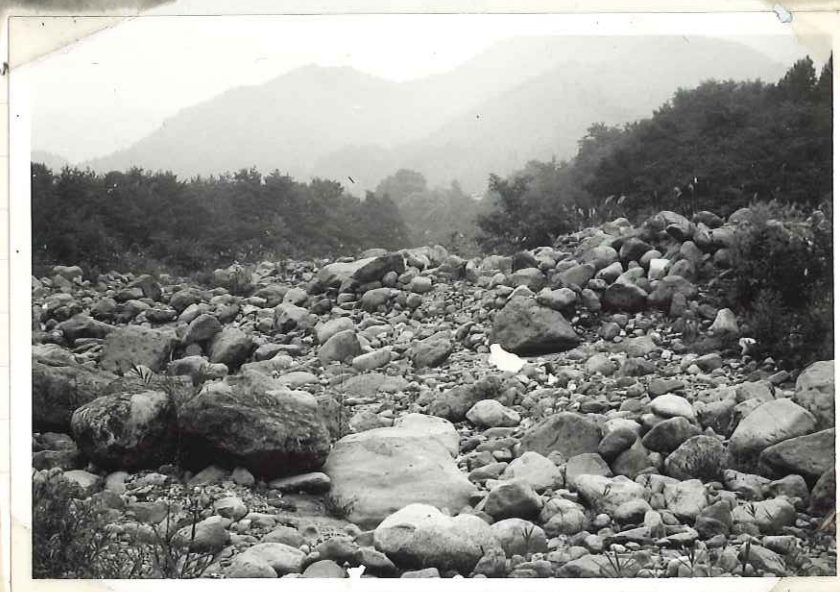


これも見崎橋
と同じ古い橋
です。

〈まとめ〉

〈今のようす〉

上流(下室沢)には、ごうごうした大きな石がたくさんありました。



水はあまり多くはありません。

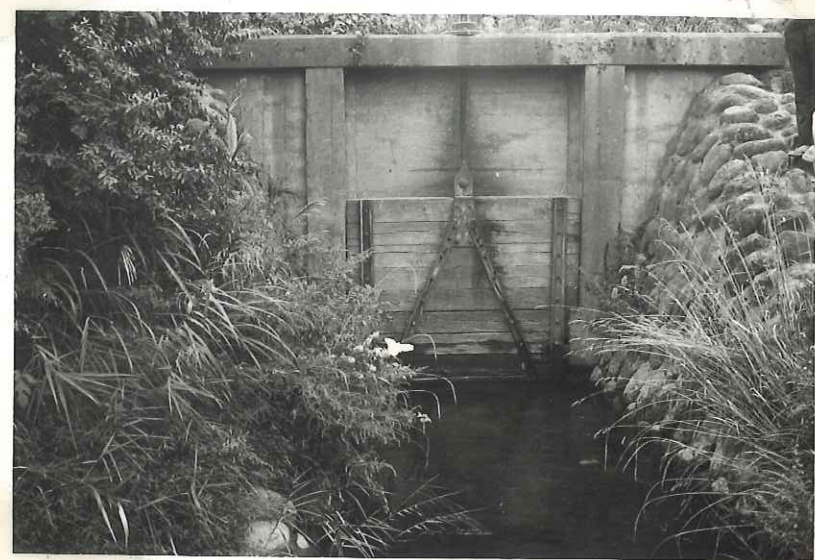
そして坊原付近では、川原のなばはくうと広くおいて、

川原には所所にたてふたが並んでいます。

その上流にさ玉ダムがあり、時々ダムにたまった水を流

す時は、サイレンをならします。その時は、川に近よらないでください』と書いてありました。

川原に歩いてくたうと、水原地のなと上に ささせきの水門があります。

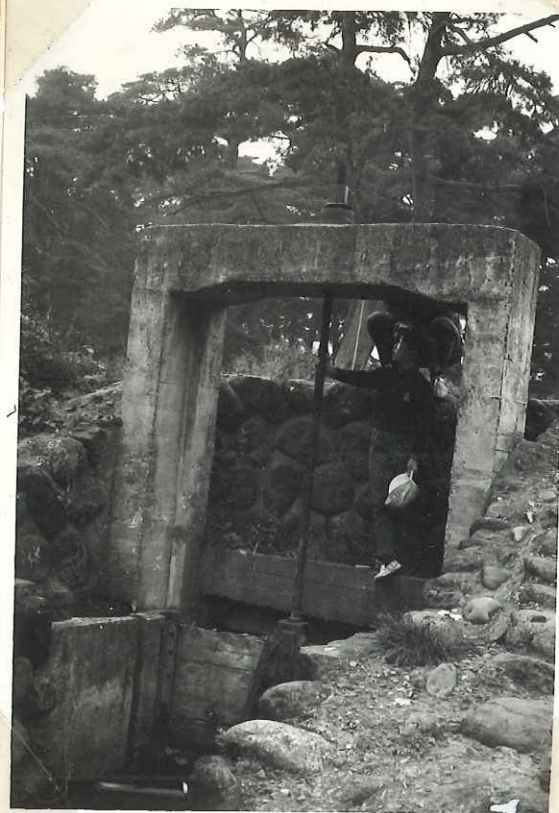


この川原は、車で通ることが出来ます。

もっと下流に行くと、ごうんせきの水門が見られます。

せきには、目刺がっついていました。

次ページのしゃしんをみるとよくわかります。



ごうんせき水門

せきに 目刺がっついてるのが見えます。



ここからまなく下がるともうもういんがあります。
そして、市民プールがあります。この辺にバイパスが通り、
山形大橋があります。自動車がたくさんとあってはいた。



ここをさがってみどり町からその川に行く橋を作っていました。
いかに会の人がたくさんいました。
川原に公園が作ってありました。
川原の石は、小さくなって川原がいろいろになったかんじがした。
自動車練習場が作られています。
そして馬見ヶ崎橋(元千丸橋)になります。

美しい松林が見られます。

ここから、二口橋の間の左かたに県立グラウンドがあります。

水はほとんど流れていません。

このていほうの高さと家の二かいとの高さが同じです。

それからちとせ橋になります。

この間に交通公園があります。

ちとせ橋と平行に奥羽本気線が通っています。

そして見ヶ崎へ、長町をすぎるとの3川を合流して
水の量が多くなります。この辺の人は、白川とよんでいます。

そして中野目から歩きました。

そして、馬見ヶ崎川とす川の合流地点を見ました。

水の量は、時々、川ははがせ、水は、あまりきれいで

ありません。石は、ぜんぜんありません。

魚をとっている人がいました。

まわりは、原っぱや畑です。

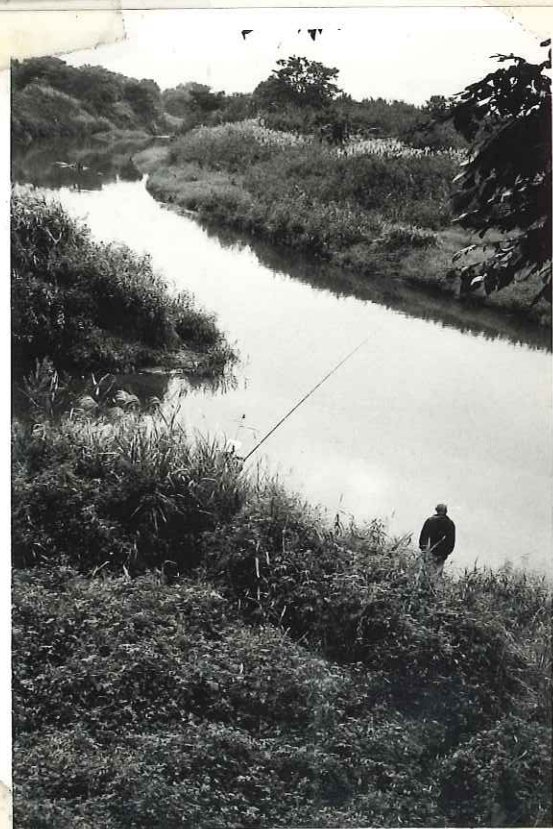


馬見ヶ崎川とす川の合流地点→

思ったより

馬見ヶ崎川のははがせまくて、す川

と合流すると、大きくなっている。



3100

蔵王ダム

馬見ヶ崎川総合開発事業

蔵王ダム



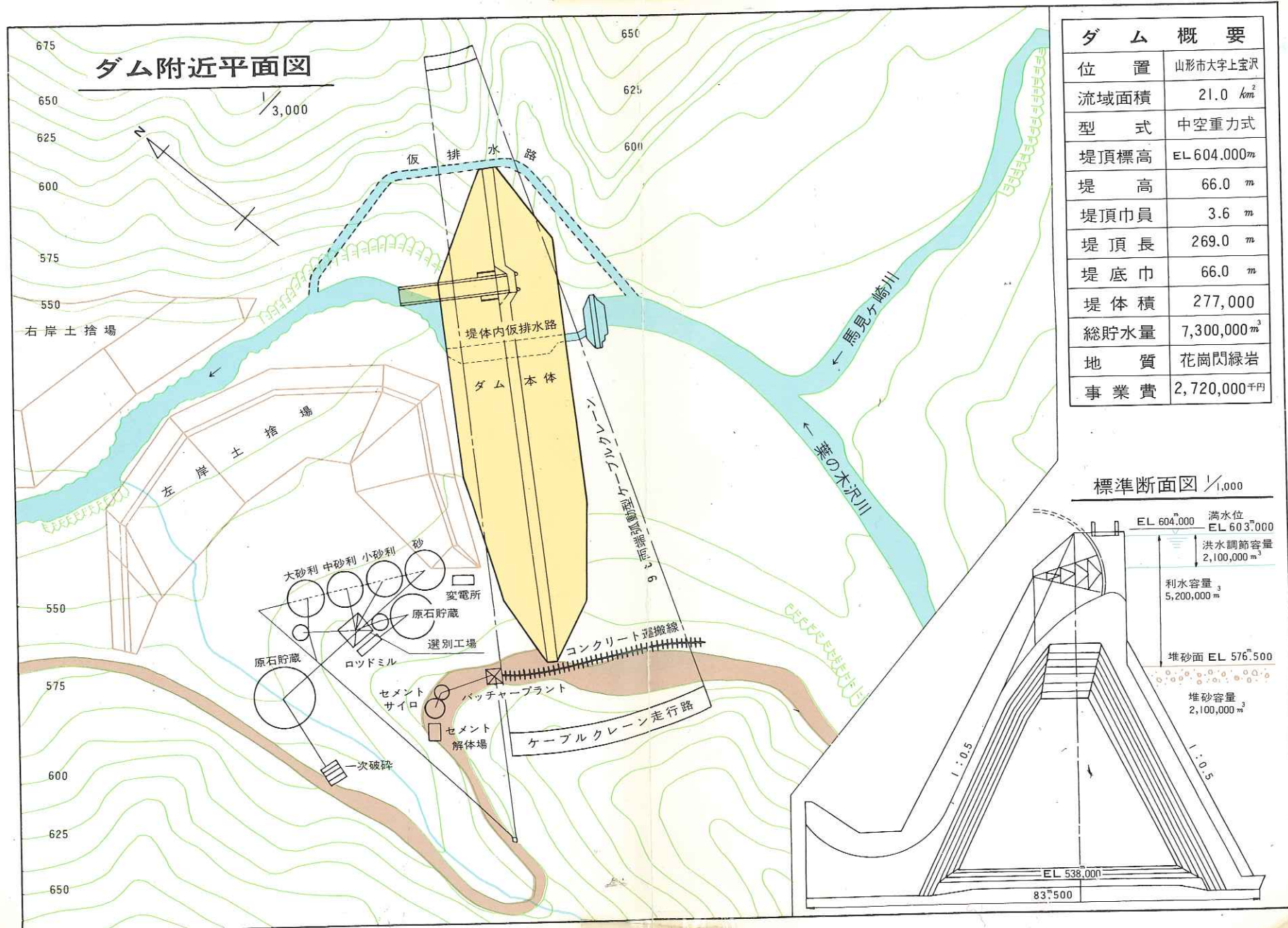
昭和41.5.撮影

山形県蔵王ダム建設事務所

昭和44年10月

31

馬見ヶ崎川の主流に蔵王ダムが
あって水を貯えています。



《事業の概要》

氾濫を防ぐ

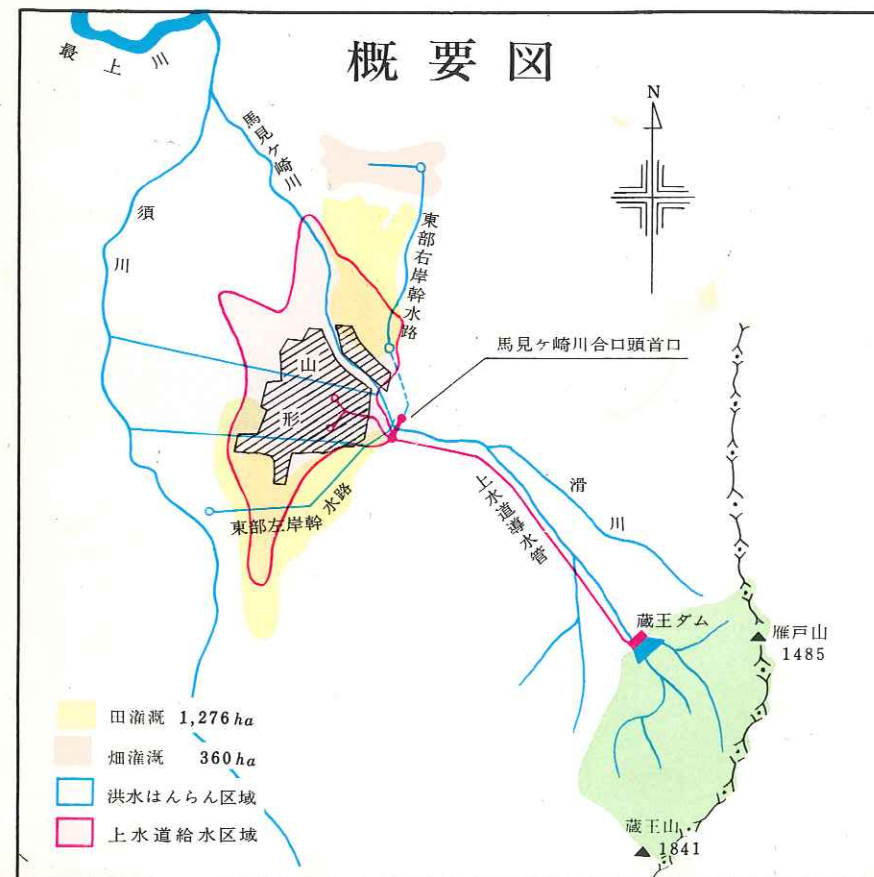
馬見ヶ崎川は樹木で有名な蔵王山系に源を発し県都山形市を流れ須川に合流しております。古くから市民に親しまれていますが一旦洪水になると急流河川なので山形市一帯は大きな災害を受けてきました。この災害を防ぐために山形市上宝沢字葉の木沢地内に洪水調節用のダムを建設しようとしています。

田畑に補水する

馬見ヶ崎川は古くから農業用水として使われていますが最近農業の近代化されるに従って益々安定した水が必要なのでダムの貯水を利用して山形市周辺の田畑に補水し渇水による被害をなくそうとしています。

飲料水を供給する

また馬見ヶ崎川は清流なので山形市の上水道用水は本川のおかげを受けてきましたが人口の増加、生活の向上などにより水量が不足してききましたのでダムの貯水を利用して豊富な水を山形市に供給しようとしています。



〈田宮印刷納〉

〈反省〉

よかった点

○さい初本で謝りから歩いてみたのでたいいな所などを

見のがさずにまた、時間もあまりからずすんだ。

○みんなにいろいろさんこうになったものをもってきてもらったのでよかった。

(本や地図)

○山形市のことなどがよくわかり、むかしの人々のくろうもわかった

のでよかった。

わるかった点

○夏休みにあまりしていなかったのであとかたいつ人だった。

○馬見ヶ崎川としてのまとまったしりようがなかったので本の数が

タタくてくろうした。

○むずかしいことばがタタくてこえた。

○もちたしきんの本ばかりなのでうつすのにくろうした。

〈お世話になった人〉

先生、父母、兄、クラスの友だち、いとこ、その他

〈使った本〉

- ① 馬見ヶ崎川農業水利史 …… 地質・名前のゆらい・水温など
- ② 山形市の町 …… 古い時代の流れおよび歴史
- ③ 風雲山形城 …… (同上)
- ④ 山形県川はつ史 …… 洪水のむかい
- ⑤ かな内長べい伝 …… (同上)
- ⑥ 山形県さいるい年表 …… (同上)
- ⑦ 山形県年かん …… 洪水の年表
- ⑧ 山形市郷土とく本 …… 馬見ヶ崎川の特色および歴史
- ⑨ 長谷川利助^{リッポウ}おら伝 …… 馬見ヶ崎橋(元^{もと}九^こ橋)について
- ⑩ 山形の歴史 …… 水足各